

< 参考資料 >

福島第一原子力発電所 敷地境界連続ダストモニタ
警報発生について(モニタリングポスト8近傍)

2016年7月4日

東京電力ホールディングス株式会社

TEPCO

時系列

7月3日

7:07頃 免震重要棟集中監視室 MP（モニタリングポスト）ダストモニタ監視盤にて、ダスト放射能濃度の上昇を示す「高警報」（警報設定値： 1.0×10^{-5} Bq/cm³）が発生。

7:15頃 当該ダストモニタの指示値は、通常値付近に戻っていることを確認。

8:30～8:50 ハンディタイプのダストサンプラーにより、当該モニタ近傍でダストサンプリングを実施。

8:43～9:47 「高警報」が発生した際に使用していた当該モニタのろ紙の回収・交換。

< ガンマ核種分析の結果 >

ビスマス：Bi-214等の天然核種以外は未検出を確認。

- 警報発生時のろ紙

Bi-214： 2.3×10^{-8} Bq/cm³

- 当該モニタ近傍のダストサンプリング結果

Bi-214： 6.1×10^{-7} Bq/cm³

12:55～13:20 モニタ装置を予備機に交換

交換後の指示値は通常値を示していることを確認。

「高警報」が発生した原因は、以下の事から、当該モニタの「機器異常の可能性」があると判断。

- ダスト濃度上昇時の各プラントパラメータに異常がないこと
- 当該モニタ以外の敷地境界ダストモニタ、モニタリングポスト、構内ダストモニタ等の指示値に異常がないこと
- 当該モニタ周辺において、ダスト上昇に繋がるような作業は行っていないこと
- 核種分析の結果、天然核種（ビスマス：Bi-214）は確認されたが、「高警報」（警報設定値： $1.0 \times 10^{-5} \text{Bq/cm}^3$ ）に至らない濃度であること
- ろ紙を交換していない状態で、警報がクリアしていること（通常、ダスト濃度上昇を感知した場合、ろ紙を交換しないと警報はクリアしない）

当該ダストモニタについては「機器異常の可能性」があるため、念のため、12時55分から13時20分にかけて、モニタ装置を予備機に交換し、交換後の指示値は通常値を示していることを確認。

なお、機器異常の可能性のある当該モニタについては、今後点検を実施。

敷地境界ダストモニタの設置場所

